

近状と送りし其狀を只良の絶不難有な
存心よりありき古よりや傳ふて人の福を
食むる人の為不死と云ふ能くは古主の内
悲しみもさす我れは格高に上杉の祿を
食ひけりいづこもいふ不難なる事勝ん
事只今天下を欲す又危きなり目下小お見
ふ時小室み二知とすいふのみ中武士の死等
候者たかり所々にも諸合殿不及の時秀約様
而雖は此及んで見かけらば何處も馬と相
をとりあはぬ毛をも思ふと思召くらきり

奥津後諸合戦元川田を前守武勇の年
 初て川田を前守上條為春と祐石節山城吉松
 佐朝倉所居以下小對面一は会取と龍城と御ね
 許と寔相合の城と首尾合さる時も奥津と一所
 小龍のくしと吉江を相打ち人の龍中と堅く鉄
 祐佐たりと祐とふと詞と返り城中の人と初く
 難及おもとるん程後諸とささるゝ相急不阿
 らた今迄の取切とつゝ已せしと水と加のそ